

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103608		
法人名	医療法人社団 光樹会		
事業所名	グループホーム木太		
所在地	香川県高松市木太町3749番地3		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 30 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年4月から新理事長就任となる。同時期コロナアウトブレイクの中、施設をより安全に運営するため法人母体である医療機関と連携し、施設理念(思いやり・愛情ある・介護)に基づき、施設の体制を整えた。常に初心の気持ちに立ち返り、向上心を持ち、更なる職員のレベル向上の為、継続してキャリアアップを支援する。また終末期までを視野に入れた支援に努める。2022年には全事業のオンライン化を実施した。業務の負担を軽減し、グループホームと他の事業所間の連携もペーパーレスでの対応および多職種の連携がスムーズになった。新設の多目的ホールを設け退院時カンファレンスやご家族との相談・イベントに活用している。また海外の技能実習生へのZOOM会議や研修の場として幅広く利用できている。開かれたグループホームを目標に地域の中で多くの支援に支えられている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770103608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770103608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 15 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の窓口やサービスは管理者に任せ、利用者ありきのスタンスを築いている。また、理事長、施設長、副施設長は、職員のバックアップに重点を置き、見守りに徹し、医療連携がしやすい環境に充実を図っている。コロナ禍であっても、家族ルールを越えた利用者や家族とのご縁にそしてお付き合いにと目配りさせ、日々の暮らしは、我が家の如く薄れず、後悔しない現状を維持している。一番楽しみの食事も飽きが来ないメニューを考え、おやつも工夫して、変化に飛んだ企画も利用者の意向を確認しながら管理者に委ねられていて、居心地の良いリビングだけでなく、見晴らしの良い屋上庭園でのイベントも盛り込みながら、爽やかな風の外気浴に触れる健康志向の発案も職員間から生まれた。「今度は何をする？何がしたい？」という施設長の問いかけから、職員のアイデアが前向きに提案され、家族や地域の方に浸透していく姿勢がコツコツと根付いている施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	Tender【思いやり】Loving【愛情ある】Care【介護】の施設理念の下「一人ひとりの個性を大切に活気ある生活を」をモットーに、地域に根差した施設として、個々にあわせたサービス提供を行う。ユニット目標とともに掲示している。施設理念から具体的な個別目標をもつ。	目標達成計画を真摯に受けとめ、経営理念に照らしながら、目標を掲げて実践している。結果、親近感が高まり、共有する過程から個人全体へとまとまっている。職員の認識が利用者に伝わり、何のために介護をしているのかが分かる関係ができて上がっている。好き嫌いも分かっているだけに信頼感に近づいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の花は日々生けかえられ「きれいね」と楽しみにされている。職員と一緒に近隣へ散歩に出掛け、畑の花などを観賞して地域の方との交流も再開できている。季節の木の実をいただき飾ったり、文化祭の作品作りにも利用される。	地域の方との縁が深く、利用者に喜んでいただく事が多い。散歩時の挨拶や、季節のお花のことで、話題が盛り上がり、ときに収穫された野菜の差し入れが、利用者の心を和ませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設新聞「はつらつ」を、施設内に掲示するだけでなく、家族や地域民生委員、地域包括センターに送付することで、当施設の活動をお知らせした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、今年は3回開催。入居者、ご家族、老人会、民生委員、包括支援センターの方々の参加で貴重な意見交換の場となっている。本年は家族の方に入居されていないユニットも含め見ていただく。ユニットでの違いや希望をうかがえた。技能実習生の発表は介護を一生懸命取り組む姿勢に心が打たれた。	地域の方の参加が少しずつ広がり、消防の方の参加にも至ってきた。日頃気が付かないことをざっくばらんに語ってくれる地域の方が集まり、委員会らしくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催時には地域包括支援センターの方々が参加時に意見をいただき、未実施の時には、電話での施設の取り組み等について貴重な意見をいただいている。	管理者が窓口となり、親切丁寧に回答をいただける関係となっている。地域に関係する情報や今後の対応に関しても速やかに取り組んでいただいている。	将来に向けて、市町村の対応を絞り込むのではなく、全体のチームとして取り計らってはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において「身体拘束」についての勉強を行っておりスタッフの「身体拘束をしない」意識向上に役立っている。また身体拘束適正化検討対策委員会において施設内の現状を確認し身体拘束をしないケアを再確認している。	スピーチロックの研修を行ったことで、良い結果が産まれた。ケーススタディを交えて、一人ひとりの考え方が固まり、拘束をしない対応が自然と身に付きだした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等にて虐待防止の勉強会を継続している。虐待を行っていないか常に意識しつつ、スタッフ間でもお互いに注意を払い、また利用者より相談があれば、随時ミーティングを行い、スタッフ間で情報を共有できるように努めている。虐待防止身体拘束検討委員会(2カ月に一回)にて協議している。身体拘束ゼロを実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等において権利擁護制度に関する勉強を行っている。成年後見制度に関する入所もあり関係機関への相談や助言をいただく事で必要な方への支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約および改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項を説明の上、疑問点の有無を確認し疑問があれば納得いくまで説明し理解を得ている。重要事項の変更、改定については随時書面でお知らせし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所前に苦情相談窓口の説明を行っており事業所内には意見箱を設けている。また入所者との日頃の会話から意見、要望をくみ取り運営に反映できるように努めている。感染対策による面会制限はあるが、ご家族とは事あるごとに電話連絡は行っており、意見・要望を伝え易い関係を作っている。	家族からの意見が聞き入れやすくするために、バリアフリーにして一緒に食事を行っている。ときには、一泊二日家族との触れ合いの場として許可を出して、プランを立て、以降が聞けるようにしている。そうすることで、意見を述べてくれる家族が徐々に増え、外から見ただけで良いくらいの気楽な気持ちが、却って成果に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見、要望を提示し、管理者会議にて報告を行っている。多目的ホールでZOOM会議を実施。多職種の連携により職場環境の改善に努めている。本年は空調設備やWiFi環境を整備した。合同会議は以前に比べ個々の意見も様々だが一人ひとりからの活発な意見が増えた。	全事業所で意見を情報共有している。問題があってもトラブルがあると言わず、職員間で言いやすい言葉に変えて行動している。管理者がゲートキーパー役となっていて、どんな些細なことにも耳を貸す姿勢ができています。話を聞ける場を作れる方がいるのは有り難い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ各自が就業規則、スタッフミーティングにていかにしてやりがいを持って働けるか等意見を出し合っている。必要に応じて個別に職員と管理者が話し合う場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修において、運営理念と行動規範を理解し、管理者及び在職職員が指導を行っている。施設内研修に参加するとともに他スタッフに習得した知識を周知させ全体のスキルアップを目指している。また、積極的にスキルアップを目指す職員を毎年2名以上を介護福祉士実務者研修等を受講してもらっている。(2023年6名受講)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	海外介護人材について、事業関係者との視察や勉強会に参加した。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーや医療機関・家族等からの電話や文書での情報提供を受けている。感染状況に合わせ、可能な場合は本人と面会して直接会話をすることで信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の施設見学時、入所前の面談時に当施設の方針、取り組み方を時間をかけ説明すると同時にご家族の要望、悩みを聞き安心感を持って頂くようにしている。また入居後も訪問時や毎月のお便りで現状報告を行い新しい要望等を引き出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、主治医、ケアマネージャーと連携してアセスメント実施し、本人の健康状態、精神状態、希望を考慮した多様なサービスに対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前に出来る事を把握し出来る事は極力自身で行ってもらうように声かけしている。継続する事で職員も本人の変化を把握でき、支えあう関係を築くことが出来る。また人生の先輩としてお話や日常の行動は貴重であり見習う面も多く「教えていただく」姿勢を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り等で入所者の心身の状況【特に体調の変化事】を報告している。コロナ感染状況に合わせ面会制限も緩和してきた。必要に応じて日々の様子を伝え、ご家族からの支援もお願いしている。家族への電話を行い、面会が困難な時期には安心され喜ばれた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況により規制はあるが、面会に来られる友人や知人の方々が、気軽に来所し易い場所である様に、スタッフの接遇の向上、明るい雰囲気作りに努めている。	民生委員が馴染みになられていて、施設に来られても、買い物に行ったときでも声掛けがある。自然な形の馴染となっている。利用者は、勝手に自分の居場所を作っていて、自然体の馴染ができています。特にドクターの縁は深く、往診が待ち遠しい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症レベルの違う入所者どうしの会話にスタッフが同席、会話がスムーズに出来る様にサポートしている。レクリエーションの作品作りもお互いが助け合い作品が出来る様配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族へ年賀はがき等で現状をお伺いする。そして遠慮のないご意見をいただけるよう考えている。退所者のご家族の紹介で入所となった例もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や日頃の何気ない行動に注意を払い、どのような思い、希望を持っているか把握出来る様努めている。把握できたものは出来る、出来ないを個人で判断せず、ミーティング等で話し合う様にしている。	発語が難しい方からは、顔の表情や仕草から意向を汲み取っている。家族の気持ちになりきって、穏やかに対応している。情報に関しては、共有できる場を設けて、どうすれば、叶うかを問いかけ相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に入所者本人の生活歴等を把握するよう努めているが、入所後も本人、ご家族はもちろんプライバシーに配慮しつつ、知人等からも極力情報を得る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で各スタッフが入居者の過ごし方、心身の状態、有する能力等の把握に努め、申し送り、ミーティング等で意見交換を行っている。Tablet入力にて医療と密に連携し、改善につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を聞き、看護師・主治医との連携もしつつ、スタッフ間で意見交換し本人に合ったプランを作成、ご家族に説明し同意を得ている。	入所して6ヶ月には必ず見直ししている。体調が悪い時にドクターと一緒に相談をして、納得がいくプランに反映させている。身体的に不便であっても、また車椅子であっても、歩くことができる方向に向けて職員と一緒に行動をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録でケアの実践、結果を申し送りミーティング等で情報交換してプランの見直しに役立っている。家族への連絡は、面会が困難な場合は電話で行った。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションでご利用者ひとり一人の出来ること出来ない事を把握し、レクリエーションの参加、取り組み方なども細かく検討し、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練・交通安全教室等、少しずつ地域との交流も戻ってきている。入居者の意向や必要性に応じたボランティアの来訪もそろそろ再開を検討していこうと考えている。民生員の方からも継続してお出掛け場所等の情報提供をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師・職員と連携しながら、主治医が入居者の体調を毎日把握し必要に応じて対応している。入居者の状態や家族の希望に応じて専門医への紹介、主治医と専門医との連携も密に行っている。	主治医が頻繁に往診に来られ、逐次様子を伺っていて、職員にも確認を取っている。気楽な家族みtainな方で、何でも語れる医師だからこそ、信頼度が高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内及び母体医院の看護師が毎日来訪して情報を共有している。入居者の細かな変化に早く気づき適切な医療を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と入院先との医療連携体制ができており、地域医療連携室のソーシャルワーカー等との情報交換もスムーズに出来ている。感染状況に合わせ可能な限り面会にて情報共有を行い、スムーズに協働できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の終末期の在り方について当事業所の方針、考え方を説明しており同時にご家族の希望等も聞き書面にサイン等をいただいている。重度化の場合は医療機関、介護職員と話し合い看取り介護計画書を作成し終末期に向けた取り組みを行っている。	ターミナルケアは行っている。ターミナルを経験した職員も多く、家族との相談や意見に対しても話に乗ってあげやすく、家族の不安解消ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の研修等において定期的に学習している。日頃から主治医とは連絡を密にしており急変時にも的確な指示が受けられるよう連絡体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内研修において災害対策につき学習を行うと同時に定期的な訓練を行っている。また訓練時には近隣に実施予定表を配布、訓練に協力をいただいている。また一時避難場所としてご利用いただける事をお知らせしている。	消防署に出向き、状況確認をしている。訓練と、判断の決定を考え、状況に合わせて対応している。備蓄は、最上階のエレベーター前の倉庫に保管され、使用期限に合わせて活用している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修及び毎日の申し送りの中で入居者に対する接し方を常に確認、一人ひとりにあつた対応や言葉かけが出来る様心掛けている。認知症が重度化し言葉かけや接し方が難しい場合はスタッフ間で相談、適切な対応に努めている。スピーチロックの研修も行い、職員同士の呼び方なども気をつけている。	人生の先輩であるという認識をしっかりと持っていて、一人ひとりを尊重しながら、家族であるという関係を維持して対応している。スピーチロックの勉強後、言葉遣いに変化が生まれだした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない言葉、行動に表出される事をスタッフは見逃さず現状を共有している。そして自己支援の決定の支援に役立っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	屋上やベランダに花を植え、毎日の生活の気分転換に花の手入れを行っている。 外出が困難な方でも屋上からの眺めや風に当たることで気分転換を図ることが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容を行っている。入浴、整容、更衣時には入居者の意見を取り入れ選んでいる。主張できない入居者には季節感等を考慮しアドバイスしたり、ご家族の意見をいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個々のレベルに合わせ変化を持たせている。(普通食・刻み食・ミキサー食)また食器の種類や盛り付けに配慮している。好みの料理やおやつ等を把握し献立に取り入れる等の工夫や、職員と一緒に準備や片付けがし易いような献立も取り入れている。	ケイタリング方式を採用しているが、旬の旬を大切にしている、近所の方の差し入れで助けられることが多い。季節のお野菜で、昔とった杵柄を思い出し、目を肥やしている。おやつ(ホットケーキ、たこ焼き、おはぎ、寒天、場所を工夫しながら屋上でサンドウィッチ)、食べ物には工夫を凝らし、チャレンジしようとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮して食事を提供している。日頃の摂取量を基本とし体調やメニューに合わせ量を調整している。食事量・水分量はtabletに入力して主治医と情報共有し、アドバイスや指示を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケアを行おうとしない入居者にはスタッフが声かけを行う。拒否があった場合は時間を空け他のスタッフが再度声かけする等工夫している。感染予防により訪問歯科は中止しているが、そろそろ再開を検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターン、当日の体調等を把握し極カトイレでの排泄に努めている。また排泄パターンの細かい変化があった時は見過ごさないよう注意しスタッフ全員が知識を共有出来る様になっている。	一人ひとりが自ら意識を把握していて、職員は、後ろから見守る程度で、支援している。失敗があっても自然と導けるようにプライバシーを守りながら対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	tabletにて毎日排便状況を把握し、主治医と連携している。主治医の指示の下服薬、水分摂取以外にも便秘にならないよう日常生活上のアドバイスを頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者のレベル・体調を考慮し機械浴・普通浴・シャワー浴を利用している。入浴日・入浴時間帯が決まっている為その時間帯での入居者の希望を確認している。また体調不良で入浴出来なかった場合は曜日、形態を変え対応している。	入浴に関しては、最新の注意を払って、室温やお湯の温度に留意している。また、利用者に合わせて、希望に合わせて入浴介助をしている。	入浴の脱衣所での事故が起こらない工夫を望む。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候や天候に合わせた室温、湿度、居室の明るさ等の管理を行っている。また細目に入居者へ室温等の希望を聞いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の同意のもと、介護職員は一包化の服薬の管理、提供を行っている。薬の変更等があった時は申し送りノートにて各スタッフへ周知している。看護師は毎日の身体状況報告をかかりつけ医に行い、連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の生活歴に合わせた生きがい、役割作りが出来る様支援している。洗濯物や新聞の整理、お盆拭きを日常生活のなかで取り入れる。レクレーションとしての部屋の飾り付けなども楽しんで参加していただく。お菓子作りは人気があります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	かかりつけ医や他院への受診以外は、コロナ禍の為未実施だったが、少しずつ再開している。春には花見に出掛ける事もできた。近隣への散歩や屋上の散策等、制限のある中でも楽しめるよう工夫している。	無理強いせず、コロナ禍でできなかったことを一つづつできる配慮を開始した。身近なところから、多少足を伸ばした企画まで、職員も楽しめる外出を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、金銭出納管理の同意書にサインをいただき、お金を預かっている。以前は一緒に買物に出掛けていたが、感染防止のために本人が購入希望する物、または生活必需品を代行して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話を設置しており希望者は外部との通話が可能である。手紙を書く場合は必要に応じてスタッフが書き方を手助けするよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所、テレビを居室外に設置する事で閉じこもりを防止。またリビング、食卓のテーブルは入居者の希望を取り入れ配置、設定を随時行っている。季節に応じホール内の飾り付けも変更している。	共用空間での過ごし方が、笑顔が出るくらい素晴らしい。常に職員がそばにて、さり気なく触れ合っていて、心温まる。リビングの入室あたりに活けているお花が、ささやかに見守っていて、静かに言葉を投げかけているようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のテーブル、座席の随時の移動はもちろん畳スペースを設けており、一人になり静かに過ごして頂いたり、仲の良い入居者と一緒に過ごせたりすることのできる空間を実現している。ウッドデッキは屋外の雰囲気もあり洗濯物を干したりしながら会話が弾みます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は備え付けの物であるが、思い出の写真や置物等を設置している。また本人やご家族の意向を取り入れ部屋の模様替え、衣替え行っている。エアコン、加湿器の利用、室内の清掃や換気等も効率的に行っている。また本人の希望により居室の変更も行っている。	窓からみえる景色が、居室まで、癒やしをもたらすし、家族写真が、静かに見守っていて、今まさに家で過ごしていて、「ひとりじゃないよ」と安心感を生んでいる。掃除が行き届いていて、温かさと安堵感に満ち溢れている居室は、家族とのキヅナを深める過ごしやすさを醸し出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	IHキッチンになりガスの取り扱いの心配も無くなり炊事場まわりでお茶の準備を手伝うことも増えた。トイレや共有スペースの表示を大きくしわかりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				